

【調査概要】 R 3.11.11・12開催

商工会青年部・女性部との懇談会について

【現状と課題】 「地元を知る・楽しむ」ための事業を検討したい！

1 商工会青年部との懇談

(1) 青年部の現状と課題

令和2年度はコロナ禍で横綱ビーチでの「青年部海の家・やるべ福島イカまつり出店」が中止、令和3年度もイカまつり中止のなか、新たな事業として「イワナの塩焼き、山菜の販売」を実施し大好評でした。

(2) 新たなまちづくりへの参加

福島町には良いところが沢山あるのに、多くの町民があまり知らないと感じることがあるので、「地元を知る・楽しむ」ための事業を検討したい。

- ① 岩部ビレッジ計画
- ② 千軒岳登山大会の復活、地元ガイドの育成
- ③ 全国的に流行となっているキャンプができる場所の検討



2 商工会女性部との懇談

(1) 町・議会に対する要望

- ① 全道商工会女性部の「おもてなし交流」に参加し、互いの町のPRや事業の実施方法等を学びたいと考えている。町有バスの使用について相談したい。
- ② もっと議員の皆さんが、「にぎわい夏まつり」等の会場を訪れ、町民の方々と親しく懇談し、女性部員や青年部員にも声をかけ激励してほしい。

(2) 議会参画について

七飯町では商工会の女性部長が女性議員になっており、女性の視点も必要だということは理解している。

定数については色々な考えはあると思うが、議会の活動の幅が狭まるので、議員の数は減らすべきではないと考える。



【調査概要】 R 3.12.16・17開催

福島吉岡漁業協同組合青年部・女性部との懇談会について

【現状と課題】 夏の養殖昆布漁、人手不足に危機感！

1 福島吉岡漁業協同組合青年部との懇談

(1) 養殖昆布の品質維持

養殖昆布業を続けていき、現在の製品の品質を維持するためには、バイトの人数確保が重要だ。バイトを確保できなければ、養殖昆布はやめなければならなくなるのではないかと懸念されている。



(2) 定住対策

- ① 町を離れた若い人や町外の若い人を、「福島に行ってみよう」と思わせる対策を町が講じなければ、人口は増えない。
- ② 保育料等の無料化はありがたいが、福島に就職する場所がないと、高校卒業までの18年間金銭面で優遇していた子ども達は福島を出て行ってしまおう。
- ③ 今まで関心がなかったもので、議会を見ていなかった。



吉岡地区青年部



福島地区青年部

2 福島吉岡漁業協同組合女性部との懇談

(1) 後継者対策

- ① 昔は漁師に嫁ぐと女性部加入は当然と思っていたが、今の若い人（息子の嫁）は別の仕事を持っており、女性部加入を強く求めることができない。
- ② 吉岡地区の部員の3分の1は、漁業に従事していない方（マリンメイト）である。吉岡地区には20代・30代の若い人自体が少なく、いても子育て中なので声掛けはしていない。

(2) 昆布養殖の人手不足対策

養殖昆布漁業者は高齢化しているが、バイトも同じ状態になっている。新しい人を探しても、夏場の一時雇用のため、なかなか人が集まらない。人手不足については個人で考える事ではなく、町で考えてもらうことはできないか。後継者のためにも、考えてほしい。組合と議員でも相談してほしい。



吉岡地区女性部



福島地区女性部